

第6章 女性のあなたが、あなたらしく働ける未来へ

ここ数年、女性のネットビジネスへの参入が著しい。この在宅でできるビジネススタイルは、まさに子育て中の女性にうってつけだ。

実は女性の能力は、ネットビジネスで必要とされるスキルと合致している。
そのことを理解できれば、もっと多くの女性がネットビジネスを通して自身の能力を発揮できるはずだ。

そしてクリエイティブで柔軟な思考を持つ人たちと積極的にかかわることで、あなたのビジネスも、そしてあなた自身も大きく成長することだろう。

この章では、女性を取り巻く社会の現状を再確認した上で、男性の僕から見た「成功している女性の姿」に焦点を当て、ネットビジネスとの関係を紐解いていく。

彼女たちは、どのようにして理想のライフスタイルを手に入れたのか、その秘訣を具体的な例をあげて解説しよう。

なぜ日本社会は女性の能力を生かせないのか

OECDが実施した「仕事でITを使う頻度と、ITを活用した問題解決能力の高い人」の割合を比較した調査によると、ITを活用した問題解決能力の高い人が多い国では、仕事でITを使う頻度も高いことがわかっている。

しかし日本の女性に限っては、この傾向が当てはまらない。

「ITを活用した問題解決能力が高い女性」の割合を見ると、日本はOECD諸国の平均並みである。だが、「仕事でITを使う頻度」は調査中2番目に低く、日本の女性だけが、国際的な傾向線から大きく下方にはずれている状態だ¹。

また、日本、アメリカ、イギリスの状況を比較してみると、日本の女性は読解力や数的思考力が高いにもかかわらず、やはりこれらの能力を仕事で使っていないことがわかっている²。

女性が本来持っているスキルを十分に発揮できないのが、今の日本の現状なのだ。

ではなぜ日本では、女性のスキルが存分に活かされないのだろうか。

その理由として考えられることは、大きく分けて3つある。

第一に、女性は企業内でもキャリアアップの早さや賃金面で、まだまだ男性との格差が存在する。働き方改革が叫ばれているものの、改革が目指す姿と現実にはまだまだ大きな隔たりがあるのが実情だ。

第二に、出産をきっかけに、女性はキャリアの道をあきらめざるを得ないことが挙げられる。総務省の「社会生活基本調査」によると、家事や子育てにかかる女性の負担は依然として大きく、家事の大半を女性が担うという傾向が続いている³。

男性の育児休業取得率は年々上昇しているものの、女性に比べて圧倒的に低く、取得日数も非常に短い。その要因には、企業が男性の育児休暇を認めていても、実際には休暇申請をしにくいという側面もある⁴。

第三に、出産後の社会復帰のしにくさがある。女性は出産を契機に、3割の正社員、7割強のパートタイム労働者等が、労働市場から退出している⁵。

そして一度就業を中断すると、希望する仕事に正社員として再就職できる機会をほぼ失うこととなるのだ⁶。長年にわたる日本企業の雇用慣行から、一度離職した女性が正社員として再就職することは至難であると言える。

こうして、これまで培ったキャリアやノウハウの蓄積が活かされなくなるのだ⁷。

女性は、職場での格差に加え、結婚、出産、子育てという普通の人生を歩もうとすると、子育てや家族の都合を優先した就業条件を余儀なくされる。

家事に加えフルタイム勤務では負担が大きいという理由で、柔軟に働けるパートタイムを選んでいる女性の割合が高いことが、厚生労働省の調査からもわかっている⁸。

こうした現状が女性を働きにくくさせている。女性がキャリアアップしやすい日本社会となるのは、まだ先のことと言えそうだ。

経済的に不透明な将来、結婚すれば職業の選択に制限をかけざるを得ないという現実。これらの問題を前に、女性が自らの将来に不安を抱くのは当然のことだろう。

しかし、決して悲観的になる必要はない。社会は様々な問題を抱えているものの、自分次第で新しい道は開けるのだ。

自己イメージで叶える夢

僕の周りには、社会の閉塞感から早々に抜け出して、イキイキと輝いている女性たちがいる。

彼女たちからは、ある一定の傾向が見えてくる。

それは「自らが自らに抱くイメージと、他人からの評価」が一致することで、精神的に満たされていると言うこと。

その姿はまるで「高い自己イメージの達成」を想い描くことを燃料とし、「他人からそのイメージ通りに見られたい」と願う欲求をエンジンにして、自らを前進させているかのようだ。

夢や目標に向けて邁進する女性たちは、充実感をモチベーションにして、たとえ目の前の現実が厳しいものであってもそれを乗り越え、成功への道を突き進んでいく。その姿には潔ささえ感じられる。

ネットビジネスで夢を叶えた女性、目標を達成した女性は実に多い。

そんな彼女たちも、ネットビジネスを始めるわずか半年や一年前までは、夢や目標が漠然としている中、「なにかが違う」とモヤモヤした気持ちで日々を過ごしていたのだと言う。

そんな女性たちから、あるとき僕はこんな話を聞いた。

結婚すると女性は「〇〇さんの奥さん」と呼ばれ、子供が生まれると「〇〇ちゃんのママ」になり、子供を中心とした人間関係の小さな社会の中で過ごすこととなる。

そして子育てが一段落すると、自分の居場所を自分で見つけなければならない。

しかしそれが上手くいかないと、母親の燃え尽き症候群、いわゆる空の巣症候群に陥るケースも少なくないというのだ。

彼女たちも、ほんの少し前まで同じ境遇だったのだ。

しかし、いまはもう過ぎ去った昔のことを懐かしむかのように、そんな話をしながらうなずきあっていた。

そしてその後には、いつものようにビジネスの質問を僕に浴びせ、僕の知っている「バリバリ活躍するカッコいい女性」の姿に戻っていった。

「お姉さんたち、ネットビジネスに出会ってほんとうに良かったですね……」と、彼女たちを見ながら僕は心から思った。

ネットビジネス実践者の間では、年齢や性別を超えて「ひとりの人間」として付き合っている。

本来は個々に自営業者なので「同業他社」と言えるだろう。
しかし競合相手というよりも「ビジネス仲間」といった感覚だ。

そしてセクハラという言葉は当然あり得ない。
ある程度の年齢であっても「おばさん」なんて呼ばれることもない。

「こんな些細なことが、女性にとってどんなに嬉しいことか」と、様々な人間関係で苦勞した女性たちは口を揃えて言う。

ネットビジネスに参入する女性は増え、いまや男女半々ほどになっている。
しかし腰を据えて本格的に取り組む、大きな収益を上げるのは、やはり男性がほとんどだ。

女性は「大きなビジネスは私には無理」「私はこのくらいで十分だから」と、どこかで自らに制限をかけているようだ。

だが、それは無駄な謙遜というものではないだろうか。
本来の能力を活かさないのは、実に“もったいない”ことに思えるのだ。

夢のライフスタイルは手が届く場所に

いま、まさに結婚、出産、育児という人生のステージにいる女性、或いはこれからそれを経験するであろう女性に、「あなたの経験はあなただけのものではない」ということを強くお伝えしたい。

子供は“お母さん”の背中を見て育つ。
あなたのイキイキと輝く姿、人知れず頑張る日々の背中を、子供はしっかりと見つめている。
それも“20年にもわたって”である。

ここで、一人の女性を紹介したい。

「社会や会社をあてにしたってしょうがない。あてにならないものに権利を主張しても時間の無駄。自らの手で理想のライフスタイルを掴み取るしかないじゃない」。
こうしたスタンスで、PC一台で起業した“彼女”は、Win95が発売されて間もなく、ネット上で収益を上げる方法をたった一人で編み出すと、先駆者として注目を集めた。

ネットビジネスと言う呼び名さえなかった時代のことだ。

その後、多くの女性たちが、ネットビジネスによって夢のライフスタイルを掴み取ってきたことは言うまでもない。

彼女は言う。

「この 25 年間、女性の働きやすさは少しずつ改善されてきた。とはいえ、社会の変化のスピードの方がはるかに早かった。その時々時代の波に乗りながら、社会の常識に囚われず、でも周囲との折り合いも考えながら、自分の手で自分にとって快適な環境を“掴み取って”いくしかなかった。いまでもその状況は変わらない——」。

この“彼女”というのは、実は僕の母親のことだ。僕は、母のそうした背中を見ながら育った。

そして 25 年が経過した。

僕自身がそうであるように、こうした母親の姿を見て育った二世が、いまや社会の第一線に立つ時代に入っている。

理想のライフスタイルを手にした女性、素敵で素敵な背中を子供に見せる母親。次はあなたの番ではないだろうか。

夢への道は女性の特性を把握することから

世の中は、まだまだ「男性社会」ではあるものの、女性ならではの特性を活かすことで、夢を叶える道筋が見えてくる。

そこで女性が自らの特性を知り、力を十分に発揮できるように「女性のネットビジネス実践者の特性」をまとめたので、ここに紹介しよう。

「これだからこそ向いている」女性ならではの 3 つの長所

長所 1：マルチタスクに向いている

男性がおおざっぱに片づけてしまいがちな仕事を、女性は丁寧にこなす。

資料づくりや動画編集など、ネットビジネスで必要となる作業のクオリティは、総じて女性の方が高い。ビジネスが軌道に乗り、複数のプロジェクトを同時に進めるようになると、マルチタスクが得意な女性の能力が更に発揮される。

長所2：時間の使い方が上手い

家事や育児と、仕事を両立している女性は、スキマ時間や一日に使える自分の時間をしっかり管理している。もちろん独身の女性も同じだ。

長所3：コミュニケーション能力が高く、全体を見ながら細やかな気遣いができる

様々なビジネスシーンに不可欠なコミュニケーションスキルが、女性には元々備わっている。この点で男性はなかなか敵わない。

例えば、イベントの仕切りやコンサルティング業務のサポートでも、女性が入ることで円滑に回る場合が多々ある。

「これに気をつければ上手くいく」女性によくある3つの短所

短所のない人間はいない。

女性にありがちな短所を理解することで、それを上手く補いながら円滑にビジネスを進めることが可能となるので、ぜひ参考にして欲しい。

短所1：感情的になりやすい

これは、多くの女性に共通する特性だ。

最近の脳科学では、性別による脳の構造の違いや、考え方・行動の差異は証明できないとする説が主流だという。

しかし実際のビジネスの現場では、どうしてもこの問題に出くわす。

「根拠がないからそんなことはない」と言い切るよりも、「感情的にならないように自分も気をつけよう」と考える方が得策と言えるだろう。

短所2：主体性に欠ける

これも女性らしい特徴と言える。

自分の判断と責任の下で行動する意識が持てない女性は、やらされている感が強い。

「夫の給料が安いから」「家にいてお金を稼いで欲しいと言われた」など、ビジネスを始める理由さえ家族の存在を言い訳にしてしまう。

そして上手くいかないことがあると「本当はこんな仕事は望んでいない」と、投げ出してしまうことさえある。

逆に「夫の仕事が辛そうだから辞めさせてあげたい」「お金のせいで子供の可能性を狭めたくない」など、他者、特に家族に対する明確な貢献の目的がある場合は、思考がブレることはない。

短所3：ビジネスパーソンとしての基本ができていない

これは一部にしか見られないことだが、例えば若くして結婚した主婦の場合、社会経験の浅さに加え、10代、20代の頃にチャホヤされた気持ちが抜け切れておらず、クライアントに対する礼儀に欠ける場面を目にすることがある。

ビジネススキルを習得するのと並行してマナーを身に付け、このようなマイナス要素を解消すれば、好感を持たれる上に社会人としての信頼を得て、活躍の場も広がることだろう。

さて、もしかして思い当たる点がいくつかあったのではないだろうか。

あなたが女性の場合、自分の特性を理解し、ぜひビジネスを通して長所を伸ばして欲しい。
そして、あなたが男性の場合は、この知識が周囲の女性に対する理解につながることを願う。

夢を叶えたいま～さまざまな女性たちの姿

それでは、ネットビジネスで夢を現実にした4人の女性たちを紹介しよう。

彼女たちはいま、社会の閉塞感から早々に抜け出してイキイキと輝いている。
だが彼女たちもネットビジネスを始める前は、いまのあなたと何ら変わらなかったはずだ。

あなたも、ぜひ参考にして、一步踏み出すきっかけにして欲しい。

<独身 OL から転身～年収 1500 万円で、夢を手に入れた 30 代前半の女性>

最初に紹介する女性は、数名の部下を抱えるキャリアウーマンだった。
職場の福利厚生は充実していて休暇も取れたものの、激務と職場の人間関係に彼女は疲れ果てていた。

そんな中、「好きな時に旅行でき、毎日どこで仕事をしても良い自由な生活」に憧れていたことを思い出し、思いきってそれを目指すことにする。
副業でネットビジネスを始めてみると、その憧れはどんどん現実のものとなっていった。

はじめのうちは仕事との両立で、なかなか思うように進まなかったものの、持ち前の真面目さでコツコツと実践するうちに、ひと月に20万円を得るまでになった。

そこで思い切って退職し、ネットビジネスに集中した結果、月収はすぐに 50 万円台となり、翌年の年収は 1500 万円を越えるまでになった。

彼女はいま、一人で悠々自適な毎日を過ごしている。

好きなときに起き、プライベートを満喫し、仕事はしたいときにする。
念願だった旅行にも年に 2,3 回は出掛けられるようになった。

先日、結婚間近と聞いた。成功してイキイキと輝いていると、全てがポジティブに回るようだ。

<退職した子育てママ～コスパ良く稼いで年収 1000 万円>

現在、夫と娘一人を持つ 30 代の彼女は、20 代半ばで結婚を機に会社を退職している。
その後出産し、これから負担が大きくなる教育費のために貯蓄しようと考え、パートを探し始めた。

しかし幼い子供がいると、シフト時間の融通が利かないことを理由に、なかなか雇ってもらえない。
やっと就職できても、家事と育児をしながらのパートでは、せいぜい月 3 万円程度の収入にしかならなかった。

「もっと効率良く、コスパ良く働きたい！」
そう考えた彼女は、在宅でできる効率のいい仕事を探して、ネットビジネスに出会う。

それからはドラマを見る時間やママ友との付き合いさえ断って、ビジネスに集中した。
その結果、4 ヶ月程で月収 10 万円台となり、その後、年収 1000 万円を超えるまでになった。

いまでも彼女は、子供と一緒に寝てひとりで早く起きるなど、ビジネスの時間を確保するための工夫をしている。

そうして得た収入で、出費の多いバレエの習い事や歯の矯正も、子どもにさせてあげることができた。
また、ハードワークで身体を壊しそうだった夫には「こちらの仕事を手伝ってほしい」と退職を勧めた。

夫婦とも時間に縛られなくなったおかげで、家族で出かける時間も増えた。お金を気にせず旅行できることが一番の幸せだと彼女は語る。

<夫の介護で退職～オリジナル商品のネット販売を軌道に乗せた 60 代女性>

パソコンに不慣れな中高年でも、ビジネスを成功させることはできる。
ここで紹介する女性は、まさにそんな「60 代でパソコンが苦手」な人だった。

仕事にやりがいを感じ、ずっと働いてきた彼女だったが、夫を介護するために退職することになった。

時間に余裕ができたため、自分で何かやってみたいと思い、ネット検索していたところ、自分のスキルを活かして、オリジナルの商品やサービスをネット上で提供できる仕組みを知り、早速始めてみることにした。

そもそもパソコンは苦手だったが、それでも少しずつオリジナルの商品やサービスを考え出し、集客から販売までの体制も整えていった。

ネット上のコンテンツやサービスの提供で完結するため、これまでのような「現地に赴いて販売する」必要がなく、いくら集客して販売しても、夫の介護をしながら両立することができた。

夫の体調を見つつ仕事量を調整しているが、それでも月 20 万～60 万円の収入を維持し、年金に頼らない生活を送っている。

「孫にも好きなものをプレゼントしてあげられることが嬉しい」と彼女は話している。

<高校中退の元キャバクラ嬢～やり方の工夫で育児と兼業>

高校を2年で退学した彼女は、キャバクラ嬢などを経験。

しかし20代半ばで体調を崩してからはOLとなり、受付兼事務員として働いていた。

OLの収入だけでは将来が不安だと感じた彼女は、投資やネットワークビジネスを試してみたものの、うまくいかず貯金を使い果たしてしまう。

そんなときに知ったのが、資金がなくても始められるネットビジネスだった。

最初のうちは様々な手法に目移りして、一つも成果を上げることができなかった。

しかし基礎からしっかりと教えてくれる人に出会い、彼女は変わった。

一年ほどで月30万円を売上げるようになり、さらにビジネスを大きくしようと挑戦しているなか結婚し、すぐに出産。

それまでは、作業した分だけ収入が入ってくる、初心者でもやりやすい手法をとっていたが、徐々にツールを買い揃え、作業を外注するなどの工夫で、効率よく利益を生む仕組みをつくっていった。

いまでは、幼い子供に手がかかり、仕事の時間をとるのが難しい中でも、月に20万～50万円ほどの収益を維持し、不安なく子育てに集中している。

さて、夢を叶えた4人の女性を紹介したが、いかがだっただろうか。

彼女たちはネットビジネスを始めるまでは、どこにでもいるごく普通の女性だった。

しかしネットビジネスを基礎からしっかりと学び、あきらめずに実践し続けたことで、理想のライフスタイルと将来に不安のない環境を手に入れたのだ。

ネットビジネスなら女性が本来持っている能力を存分に発揮して、夢を叶えることができる。

女性が持つ高い自己イメージを“エネルギー”に変えて、自分の実力を出し切れる環境がここにはあるのだ。

今後、収入面でもどんどん男性を追い抜いて行って欲しい。

そして僕もそれを心から応援したい。

ネットビジネスは前向きな女性にとって、まさに理想的な仕事環境ではないだろうか。

この環境に身を置いた自分を、あなたも是非イメージして欲しい。

第6章

注

- (1) OECD (2016) 『New Markets and New Jobs in the Digital Economy, 2016 Ministerial meeting Panel 4.1』
OECD (2017) 『Employment Outlook 2017, OECD publishing』
- (2) 川口大司, 井伊雅子・原千秋・細野薫・松島斉(編) (2017) 『現代経済学の潮流 2017』
東洋経済新報社
- (3) 総務省統計局 (2016) 『平成 28 年社会生活基本調査結果』
- (4) 男女共同参画局 (2018) 『共同参画 5・6 月号』
笹川平和財団 (2019) 『新しい男性の役割に関する調査在報告書』
- (5) リクルートワークス研究所 (2018) 『全国就業実態パネル調査』
- (6) 原ひろみ (2014) 『職業能力開発の経済分析』
- (7) 内閣府 (2018) 『平成 30 年度 年次経済財政報告』
- (8) 厚生労働省 (2018) 『雇用均等基本調査』
厚生労働省 (2017) 『平成 28 年パートタイム労働者総合実態調査』

参考

- 袖川芳之・田邊健 (2007) 『幸福度に関する研究～経済的ゆたかさは幸福と関係があるのか～』
内閣府経済社会総合研究所